

●水環境・湖沼(4) (1-B-15-4～1-B-17-1)

本セッションでは、遺伝子解析による細菌群衆構造の季節的な構造解析が二題、1-B-15-4では霞ヶ浦の水草帯、湖水、流入河川について季節的な変化が検討され細菌群衆構造の水の流れ方向によるパターン変化が報告された。

1-B-16-1では霞ヶ浦の底泥における細菌群衆構造のパターンが季節的な変化を示すこと、富栄養化の進んだ高浜入りでの微生物群衆が他地点より多様化していることなど興味深い発表がなされた。

続いて1-B-16-2では霞ヶ浦底泥の深さ方向の酸素消費速度の分布を測定され西浦と北浦について検討され、浚渫や下水道整備により西浦の水質改善がすすみ北浦の底泥に比べ酸素消費速度の改善が見られることが報告された。

1-B-16-3では省エネ型の酸素供給装置開発について、これまでの装置に比べ構造が簡単で小さな動力で酸素供給能力の高い装置の開発について報告され、実池での実用試験についてその効果が報告された。

1-B-16-4では高濃度酸素をポンプで汲み上げた湖水に溶解して、富栄養化の進行した池の水質改善試験が行なわれ、有機物汚染に対しては幾らかの改善が確認されたが窒素除去効果は確認できなかったことが報告された。

最後の1-B-17-1ではダム湖の富栄養化対策として接触ろ材を用いた生物処理による微量金属除去によって藻類の増殖抑制効果について検討され、溶存態のマンガンおよび鉄の除去によって増殖抑制効果が有ったことが報告された。各発表において多くの質問、討議が活発になされた。

(国立環境研究所 松重 一夫)